

独立行政法人国立病院機構

松江病院
 呼吸器病センター
 〒690-8556
 松江市上乃木5丁目8-31
 TEL (0852) 21-6131 FAX (0852) 27-1019
 URL <http://www.hosp.go.jp/~matsue/>
 発行責任者
 院長 徳島 武
 編集者
 事務部長 山崎 寛



松江水郷祭花火大会

昭和4年に「松江水郷祭と納涼売出し」と冠され、始まったこの祭りは、戦争による中断を経て昭和62年から「松江水郷祭」として現在の姿で開催されています。花火大会はその祭りの中のイベントのひとつで、毎年大変な賑わいを見せています。

もくじ

「永井 隆 博士生誕百年記念コンサート&講演会」に出演して …… 2	ありがとう③ …… 9
第3回呼吸器市民公開講演会肺がんフォーラムを振り返って …… 3	看護教育研修『ホスピタリティーマインドへの気付き(パートI)』 …… 10~11
米国胸部疾患学会(ATS)に参加して …… 4	採用時研修を終えて …… 11
医療安全管理室からの報告「輸液ポンプ・シリンジポンプ学習会」 …… 4	「看護の心をみんなの心に」看護の日行事を終えて …… 12
「松江呼吸器病理研究会」 …… 5	東1・2病棟合同行事「ふれあいの日」 …… 13
ありがとう① …… 5	ありがとう④ …… 13
新人紹介 …… 6	永年勤続表彰 …… 14
「守る会」島根県支部総会が当院で開催されました …… 7	しじみ会(六月紫陽花号) …… 14
ありがとう② …… 7	松江病院の元気宣言(「しんじ湖会」(松江病院OB会)の発会を祝して) …… 15
看護助手・療養介助職研修を終えて …… 8~9	外来診療表 …… 16

 **残暑お見舞い申し上げます** (職員一同)



「永井 隆 博士生誕百年記念コンサート&講演会」に出演して

院長 **とく しま** **たけし 武**

島根の生んだ偉大な医師、平和を祈り愛に生きた医師・作家の故永井隆博士の生誕百年を記念し、平成20年4月27日に博士のふるさと、雲南市三刀屋町の三刀屋文化体育館「アスパル」にて、コンサートと講演会が開催されました。博士の平和への願いを広めるため、昨年4月から今年5月1日まで行っている生誕百年顕彰事業の一環として、雲南市と島根大学医学部が主催した行事でありまして、当日は好天にも恵まれ、約1200人という、アスパル始まって以来の参加者を集い、大変賑やかに行われました。(わが松江病院からもワゴン車や自家用車で乗り合わせて、20人以上の職員の皆さんが聴きにいられていました。)



卒業記念写真より

まず永井博士の孫の永井徳三郎さん(長崎市永井隆記念館館長)の挨拶に続いて、第一部は島根大学シニョールカメラート管弦楽団の演奏と、浜田市出身のソプラノ歌手の下垣真希さんの歌語りがありました。特に下垣さんは、すばらしい声量で「わが心の歌 長崎の鐘」と題して、「長崎の鐘」「アメージング グレース」「ふるさと」「浜辺の歌」などを切々と歌い上げ、その歌の間には、原爆の悲しい思い出(叔父が永井博士の家に下宿しながら長崎医大に通い、授業中に被爆し17歳で亡くなったこと)や平和への詩を切々と語られ、聴衆の涙を誘いました。



第一部 コンサート風景

第二部は、NHK「その時、歴史は動いた!」のキャスターで有名な松平定知氏が、昨年度の「永井隆平和賞」受賞作品3編の朗読をされた後、総合司会の形で講演会に移りました。5人の演者が永井博士の生涯を時系列で振り返り、その生き方について語る形で進められていきます。まず、私が博士の父・寛(のぶる)先生や母ツネの生き方から強い影響を受けた隆少年の、雲南市での小学校時代を振り返りました。ついで益田順一先生(島根大医教授)が旧制松江中学から松江高

校時代の博士の思い出や講師カルシュ博士との出会い等を中心に話されました。作家の中井俊巳先生は、「如己愛人」の精神を貫き、平和を祈るクリスチャン・永井博士の、宗教家としての側面を語られ、北垣一先生(島根大医教授)は、放射線専門医から見た、放射線医師としての永井博士の仕事にスポットをあてて話され、最後に私の親友の山下俊一先生(長崎大医教授)が、自身の放射線汚染地域への国際医療支援活動を通じて、「平和希求の原点」として、原爆被災後の永井博士の生き様を克明に話されました。



向こう向きの方が松平定知さんです。

永井博士の講演企画は、これまで長崎や雲南でも数多くあったと思いますが、博士の生涯を、種々の立場から詳細に検討した講演は、今回が初めての試みで、より新鮮に永井博士の偉業を聴衆に訴えることが出来たのではないのでしょうか。また山下教授は、「長崎でも参加者はせいぜい300人程度です。千人を超える聴衆には驚きました。そして地元島根の人達の永井博士への思いを熱く感じました。長崎に帰って、永井博士の祈りを伝える平和運動を続けていく“元気”を、この雲南からもらいました。」と言われていました。私も、地元雲南で生まれ、永井博士にあこがれ長崎大に進学し医師になった一人として、博士が発したメッセージを伝えられたことに満足しています。そしてパネルディスカッションでは、この医師・看護師不足の時代に、ひとりでも多くの小、中、高校生の生徒さんが、永井博士の精神を継いで、雲南や島根の医療を担う医師や看護師になって頂きたいということを壇上から訴えました。

最後に、松平定知さんが特別ゲストで出演されたので、より一層思いを強くした事をお伝えします。近い将来にNHK「その時、歴史は動いた!」の番組で、是非永井隆博士を取り上げて頂きたいと思うのは、私ひとりだけではないでしょうか?そうして島根から平和の願いを全国へ向け発信できたら素晴らしいと思います。

第3回 呼吸器市民公開講演会



肺がんフォーラムを振り返って

内科医長 若林 規 良



院長開会挨拶

本年度も7月5日に、くにびきメッセにて第3回肺がんフォーラムが開催されました。

私自身は今回が初参加であり、また、「肺がんの内科的治療」という内容での講演をさせていただくこととなり大変の引き締まる思いでした。

当日はボランティア職員の皆さんと業者の方々の手により、本会場の設営、各種測定器の設置等の準備が手際よく進められていくのを見て、さすがに3回目だけあって慣れたものだと感心しておりました。



受付の様子

一方、私はどうかといいますと、学会での発表であれば慣れたものですが、一般の方々（肺がんに対する知識・理解の程度が不明）に対してどのレベルで話を進めてよいものかと思案しておりました。初めて肺がんにふれる方々を対象に、ごく基本的なことだけをスライドを使って表示しながら分かり易い表現で丁寧に話せば良いのか、それとも基礎知識がある方々（今回で3回目であり、フォーラムに参加されるほどなので知識・理解の程度が高い？）

を対象にある程度、高度なことを最新の情報も含めて話すべきなのか？ということは結局最後まで結論が出せませんでした。



筆者講演風景

最終的には両者に対応できるよう、肺がん治療の基本事項を網羅し、かつ最新の情報も盛り込んだため、やや駆け足での講演となってしまう、初めて参加された方々には少々難解であったかもしれません。

一般向けフォーラムというあいまいで広範な対象者に対して、講演を行うことの難しさを実感しました。今後はもう少し聴講対象者を明確にするか、あるいは聴講する側が講演内容を選択できるようにするなどの対応も必要ではないかと感じました。

ともあれ、一般講演以外にも、健康測定、肺がん相談を含めて約300名の方々に来場していただき、例年と同じく盛況であった様子で、なによりであったと思います。暑い中、足を運んでいただいた方々、また後援・協力を頂いた関係機関の方々、有り難うございました。また、諸準備・運営に携わっていただいた職員の皆さん、お疲れさまでした。



健康測定コーナー



米国胸部疾患学会 (ATS) に参加して

内科医長 小林 賀奈子

さる5月18日から21日までカナダのトロント市で開催された米国胸部疾患学会(ATS)に矢野先生、池田先生そして私の3名で参加してきました。ATSは毎年一回アメリカあるいはカナダで開催される呼吸器系では最大規模の国際学会です。エアカナダの直行便を利用したので、ATSへの出席者とおぼしき乗客がたくさんいました。トロント着は夕方でしたが、夏時間なのでまだ明るく街を散策しながら外で食事をしました。ある程度覚悟はしていたものの、日本の3月並みの寒さでした。

幸い会場のすぐ近くにホテルをとっていたので、翌日は早朝から会場であるメトロ・トロント・コンベンション・センターに徒歩で向かいました。会場は広く、同じ時間帯に様々な興味深いセッションが重なっており物理的にすべてを聞くことはとても不可能でした。その中で印象に残った演題は真菌の最新の知見、気管支鏡を用いた診断・治療、肺病変先行型の膠原病の考え方等でした。



会場入口で

学会が主体の旅行であったので観光はあまりできませんでしたが、せっかくの機会だったのでナイアガラだけ

には行ってきました。世界一の水量を誇る瀑布で、日本では想像できないほどのスケールで一見の価値がありました。



ナイアガラ瀑布 (アメリカ滝)

当院の呼吸器内科医師は現在8人体制となり海外出張も可能になりました。学会への出席は、国内外を問わず最新の情報を得ることができ患者様の日頃の診療に役立つことはもちろんの事、個人の学問へのモチベーションを高める上でも是非必要と考えます。今後も積極的に海外学会に参加したいと思います。

医療安全管理室からの報告

「輸液ポンプ・シリンジポンプ学習会」

医療安全管理室 医療安全管理係長 石川 和枝

今年4月から医療安全管理室に配置換えとなりました、石川です。よろしくお願いたします。

今年もフレッシュな新人看護師さんや当院への転勤を希望された、キャリアのある看護師さん達を迎え平成20年度がスタートしました。4月3・4日に看護技術演習を終了し各病棟で日々奮闘しておられることと思います。今年も「輸液ポンプ・シリンジポンプの学習会」を5月20・22日に実施いたしました。ヒヤリハットが昨年度中に10件以上あった項目です。器械は便利ですが、使用方法を誤ると大変な事態が生じます。そして気づいたときには...という

ことがないように医療安全の意識を高めていくためにも、繰り返しの学習を行なう意義があると思えます。毎年行なっている研修ですが、今年は3~4グループに分かれての実体験形式で学習会を行ないました。参加された方々が各部署に持ち帰り学習の成果を伝達することにより、より正確な操作を一人でも多くの方が身につけて下さればと願っています。今後も同様の研修を続けていきますが、他にも「こんな研修会をして欲しい」という意見があればどんどん医療安全管理室まで届けて下さい。お待ちしております。

医療事故防止標語

「声出して、周りが気づく その間違い!」

「松江呼吸器病理研究会」

研究検査科 臨床検査技師長 **たつ しま じゅん じ**
辰 島 純 二

5月30日に当院会議室にて「第1回松江呼吸器病理研究会」が開催されました。19時から松江赤十字病院、松江市立病院及び当院の、医師や病院各部門のスタッフが43名参加して始まりました。松江で呼吸器内科と病理の研鑽の場として、今回初めての開催であります。開催にあたって矢野統括診療部長より開催経緯の説明



矢野部長の挨拶から始まりました

と挨拶に続き、今回の肺真菌症のテーマに沿って当院の小林内科医長と松江赤十字病院の呼吸器内科副部長の徳安宏和先生から症例報告がありました。小林先生の慢性壊死性肺アスペルギルス症の症例では、病理診断は難しく内科的診断になるとのコメントを、また徳安先生の肺クリプトコッカス症の例ではカリニ肺炎との鑑別点についての詳しい説明を特別講演講師の山鳥先生から頂きました。

特別講演は国立病院機構岡山医療センター臨床検査科長 山鳥一郎先生により「真菌感染症の病理」が講演されました。熱心な臨床医の質疑に対し病理医としての見方、考え方など意見交換があり日常臨床に非常に参考になる講演となりました。



まるで大学の講義の様です・・・

今後、松江地域の呼吸器診断のレベルアップにつながる活動となるものと考えます。次回は1年後に開催する予定ですので、皆様のご参加を期待しております。肺真菌症：真菌症は何処にでもあるカビ（真菌）による疾患で、よく知られるもの一つに水虫やカンジダ症があります。カビの仲間は孢子や埃にくっついて仲間を広げていきますが、非常に小さく、空中に浮かび存在するものがあります。空気と共に肺に吸い込まれ、病気を起こします。真菌は、いろんな所に存在しますが、通常吸い込まれたりした真菌は体の防御機構で排除されます。しかし、免疫不全や白血病など免疫力の弱った場合など真菌が優勢になり、体内で殖えていきます。肺で真菌が増殖した場合、大きな問題となります。正確な診断が求められる疾患です。

原因菌としてアスペルギルス、カンジダ、放線菌、クリプトコッカス、ムコール、コクシジオイデス（外国症例）などがあります。

ありがとう

天理教による「ひのきしん」奉仕活動をしていただきました。

今年も4月29日に毎年恒例の行事となっている天理教の奉仕活動「ひのきしん」での草刈りが行われました。「草が生えすぎ。もっと手入れを」と患者様からお叱りを受けることがある程当院の雑草類はその領土拡大に精力的でありまして、もちろん職員により、また委託によって草刈り作業等は適宜実施しておりますが、人的・予算的に限界もあり、なかなか彼らの領土拡大を食い止めることが出来ていません。そういう訳で、雑草類が急激に成長し始めるこの時季に来ていただけることは大変有り難いことです。300名を超える天理教の皆さん（写真参照）による草刈りで、随分とすっきりいたしました。ありがとうございました。



事前説明中



草刈り風景
(茶摘みではありません)

新 人 紹 介 赴任の挨拶



呼吸器科医長 木村 雅 広

職員の皆様、はじめまして。

この度、7月1日から松江病院にお世話になります、木村雅広と申します。

私は、昭和41年に松江市で生まれ、松江北高校卒業後、山口大学医学部に入学し循環器内科に入局いたしました。呼吸器グループに配属され民間病院で研修を行いました。大学病院では間質性肺炎に興味を持ち、主に胸腔鏡下肺生検による間質性肺炎の病理診断・治療を行っていました。

山口県で約15年働きましたが、両親が高齢になり生まれ故郷の松江地域での医療に携わりたいと考えておりましたところ、ここ松江病院の評判を聞き是非こちらで働きたいと思いました。採用となり大変感謝しております。

小学校まで松江病院の裏の松山に住んでおまして、病院の敷地内を抜け道にして通学をした時もありました。こちらで働かせて頂くことは、懐かしい思いもあり、また運命的なものも感じます。その懐かしい建物は一部取り壊され新病棟に生まれ変わるとのことで、期待もありますがやはり少し寂しい気も致します。年は取っていますが、松江病院では1年生ですので、たくさんの先生方並びにコメディカルの方々のお力添えを頂きながら、頑張っていきたいと思えます。

どうぞ宜しくお願いいたします。



呼吸器科医長 門脇 徹

皆様こんにちは。平成20年4月から当院呼吸器科に採用となりました門脇 徹と申します。出身は愛媛県松山市で、平成11年に島根医科大学を卒業後、地元の愛媛大学第2内科に入局いたしました。愛媛大学附属病院で2年間の研修の後、国立療養所愛媛病院（現国立病院機構愛媛病院）で1年間勤務し、その後は今年

3月まで愛媛大学で臨床に研究に勤んでおりました。医師としては今年が10年目の節目となります。この度ご縁があり、この節目の年に国立病院機構松江病院に赴任することが出来てとても嬉しく思っております。今まで学んだことを生かしつつ、またこれから沢山のことを学ばせていただき、より一層精進していきたいと思えます。よろしくお願い致します。



外科医師 三好 健一郎

みなさんこんにちは。呼吸器外科医として平成20年4月1日より採用となりました三好健一郎です。出身は鳥取県八頭郡八頭町で、出身大学は佐賀医科大学です。（現在は佐賀大学と合併しました。）

地元山陰での医療に携わりたいと思い、鳥取大学附属病院で卒後臨床研修をさせていただきました。研修終了後に鳥取大学胸部外科（旧第2外科）に入局させていただき、現在は同門の大先輩である徳島先生が院長をされている当病院でお世話になっています。素晴らしい諸先輩方に恵まれ、勉強させていただいている毎日です。

また、私事ではありますが、本年6月14日に結婚式を挙げさせていただくことになりました。（まさに執筆中の今は結婚式の直前です。）この記事が掲載される頃には、式も終り、新婚旅行からも帰ってきていることとは思いますが、今はどのような結婚式になるのか不安と期待で胸がいっぱいです。妻は東京生まれの東京育ちで、東京以外に住むのは今回が初めてですが、院長先生をはじめとした当病院のスタッフの皆様のおかげで、新生活を楽しく過ごせているようです。また、この松江の環境の良さと街の美しさに、妻ともども心より、当病院に採用をいただいたことを感謝しております。

呼吸器外科医師として、第一歩を踏み出したばかりの若輩者です。何分不慣れで、ご迷惑をおかけすることが多々あるとは思いますが、今後ともなにとぞよろしくお願い致します。

「守る会」 島根県支部総会が当院で開催されました



総会の模様

「平成20年度全国重症心身障害児(者)を守る会島根県支部総会」が、6月9日(月)当院敷地内にある松江訓練センターで開催されました。松江市・出雲市選出の県議会議員、県障害福祉課長、養護学校長、近隣障害児・者施設の関係者などの来賓22名を含む、参加者約100名の出席のもと、盛大な会となりました。

冒頭、主催者を代表して堀田優子会長が、近年の重症心身障害児(者)(以下 重症児(者))をめぐる情勢と、自立支援法・児童福祉法の改正にまつわる諸課題及び「児・者一環制度」の存続の重要性と社会からの支援を強く訴えられました。続く浅野県議会議員による来賓祝辞では、島根県における重症児(者)支援と松江病院の歴史について興味深いお話を披露され、関



院長の講演

係者のみならず改めて当院の歴史的な存在意義を確認させていただきました。

開会行事の後、「病院建て替えにおける重症児病棟の

療育指導室 療育指導室長 吉岡恭一

「ゆくえ」と題した徳島武院長の講演が行われました。講演の中で徳島院長は、来夏竣工予定の新病棟のレイアウトを紹介。また、重症児(者)医療の課題として、医師不足や患者さんの高齢化・重症化についての現状と問題点の提起。そして、在宅支援としてのショートステイや検査入院の充実、今後開始する予定であるデイケア(通園)の意義を述べられました。

続いて齋田小児科医長からは、「松江病院における重症心身障害児医療の現状と今後」と題した講演の中



齋田医長の講演

で、NICUからの超重症児の受け入れの増と、入院患者さんの重症化の現状、在宅支援としてのショートステイや緊急を要する際の受け入れの必要性、地域の医療機関との連携の必要性が述べられました。また、医療的ケアの必要な重症児も受け入れるデイケアの立ち上げを現在検討中であることが紹介され、参加された保護者からは大きな期待がよせられました。

今後、当院は病棟の建て替えを機に、重症心身障害の専門医療施設としてより一層の医療・療育の充実を目指し再スタートをきることとなります。そして、医療はもとより福祉的にもセーフティーネット機能の充実が期待されています。今回の総会を通し、在宅から入院まで幅広く重症児(者)を支援できる体制の必要性、そして何よりも患者さん、保護者のみなさん、関係者の大きな期待を実感することができました。

ありがとう

石灯笼のご寄附をいただきました。

当院へ来られている皆様、また当院職員の皆様、玄関前のロータリー植え込みの中に石灯笼が現れたことにお気づきでしょうか？ これは丸雪見形の来待石灯笼でありまして、昔から当院に通ってこられている川津富美子様から6月16日にご寄附をいただいた物であります。「当院に入・通院されている他の患者様や、病院職員の方々の平安を祈念して贈ります」との事でした。写真のとおり、木々の間に落ち着いた佇まいを見せていて、来待石特有の柔らかい質感とも相まってかなり以前からそこに在ったようです。この来待石は、凝灰質砂岩という柔らかい石で、年経る毎に角が取れ、また苔類も付きやすいそうで、更に周囲と調和していくものと思われまふ。心とおプレゼント、大変有り難うございました。



玄関前の石灯笼

看護助手・療養介助職研修を終えて (研修参加者のレポートより)

平成20年度の看護助手・療養介助職研修を、三宅看護部長・山崎事務部長を講師に迎え5月28日に実施しました。テーマは「病院経営と今年度の方針」でした。受講者の感想をいくつかご紹介いたします。

看護部長室 看護助手 ^{そ た よう こ} 曾 田 葉 子

今回の研修では、今年度の病院の方針、経営状況などについて学びました。特に、新病棟の建て替えについての話を詳しく聞くことができ、今まで以上に経営参画に意識をもって働くことが必要と感じました。自分には何が出来るのか……

私の仕事は主にメッセージ業務で、日々病棟、検査室、放射線科などを巡回していますので、色々な方達に出会います。職員はもとより患者様、面会に来られた方、そして業者の方達にいたるまで、不特定多数の皆さんです。その中で挨拶や丁寧な対応をより一層心掛けていくつもりです。

そしてメッセージとしてのプロ意識を強く持ち、今後ともミスのない正確かつ迅速な職務の遂行に努めていきたいと思っています。それが私に出来ることなのですから。

病院の職員全員が、それぞれの目標を持ち、日々努力していけば少しでも経営への参画に繋がるのではないかと思います。

第1病棟 看護助手 ^{いけ だ あい こ} 池 田 愛 子

今回の研修では病院の経営方針等についての話がありました。昨年の研修には参加できなかったため、今回研修を受け、病院と、そこで働いている自分に対する見方が変わった様に思います。どう変わったかということ、今までの私は「病院で働かせていただいている一人」であると思っていました。ただ単に任された業務をこなせば良いと思っていたのです。ところが研修を経て、自分に対して「病院に所属している一人」として、病院を運営する人々の中の一人のスタッフとしての自覚をはっきりと感じました。

病院の経費、目指すべき方向、新病棟建設に向けての話等を聴いてみて、もっと自分達に出来る事があるのではないかと思います。経費について、特に節電・節水の分野は現場にいる私たちが能力を発揮できる所では

ないか、病棟内の無駄な電気、水の節約を日頃から行い、そのうちに全職員が心掛ける様になれば必ず良い結果に繋がると思います。そして、私は自分の出来ることからやって行きたいと思っています。

第2病棟 看護助手 ^{ふじ い} 藤 井 ちえみ

平成20年度の経営方針と具体的な取り組みについての話を聞き、理解することが出来ました。そして、自分の仕事に具体的に目標を持つことが出来ました。良い医療を目指す中の一人であるという意識を高め、患者様に対応する時も看護師さんに情報を提供し、指示を受けその結果の報告をしっかりと行いたいと思っています。

看護部長さんから、ケアに参加してやりがいを持って欲しいと言われた言葉がずっと心に残っています。患者様にも良く、看護師さんにも良いように動いていきたいと考えています。

また、0レベルのヒヤリハットと言われたことが気になりました。日頃から配膳時に患者様の名前を間違えないように気をつけてはいましたが、間違いに早く気づき患者様が食べられる前に交換させてもらったことがあり、ヒヤリとしたことがありました。しっかり確認し、口に出して名前を言うように気をつけていきたいと思っています。

病棟建て替えの時期に働いていることは、私にとってもよい記念となると思います。

また、よりよい病棟を築き上げる為にも微力ではありますが頑張っていきたいと思っています。

東3病棟 療養介助員 ^{い ぐち ゆ か} 井ノ口 佑香

現在、病院の建て替えに向け、私たち職員ももっと患者様のために何が出来るか考え、チームワークの良い医療を目指して行かなければいけないという事をこの研修を通して改めて考えることが出来ました。

研修前、看護部長さんも話されたように、職種を超えて職員同士がお互いの良い所、出来ている所を口に出して伝え合うことで連携を保ち、それぞれの専門性を十分に活かすという事がより良いチーム医療に繋がるのでは

ないかと共感を持ちました。

私は、昨年の4月から今年の1月まで重心病棟で、2月から筋ジス病棟で働いています。職員数も余裕の無い状態で、毎日多忙な状況ですが、事故だけは絶対に起こさないよう、特に安全面に気をつけて働こうと思いました。また、建て替えに際して不安や心配事を持っておられる患者様もいらっしゃると思うので、安心してもらえる様なメンタル面へのケアも必要なのではないかと感じました。介護士として、看護師さんとは異なる部分で患

者様と関わり、患者様にとって一番近い存在でありたいです。

来年度、病棟の建て替えに伴い、新規の採用もあるのではないかと思います。新人が入ってきたら、今度は自分達が教える立場となるので、自分自身ももっと成長しなければならないと思います。

今回の研修で感じたこと、学んだことを頭に置いて、患者様が安心できる医療を提供できるよう、日々頑張っ て行きたいと思います。

あ い が と う

天理教災害救援ひのきしん隊による奉仕活動をしていただきました。

外来駐車場横の桜の木の下・・・遙か昔から虎ロープ（設置時期不明。色が褪せてベンガルトラからホワイトタイガーになっていた。）が張ってあった場所がありました。一口で言うと「景観を損ねる」ような状態で、ここを何とかしたいと思っておりましたところ、天理教災害救援ひのきしん隊島根教区隊の皆さんが奉仕活動で軽作業から土木工事まで実施してくださると伺い、それではとお願いして、活動していただいた経過がこの写真連です。プロ並の技と思いました。実際にプロの方もおられたそうで、納得。とても綺麗にしてください、大変感謝しております。その後、花を植えて写真のとおり状態になりました。（一部では、発案者の名前を頂き「坂本庭園」と呼んでいます）せっせと手入れをしているこの頃です。



天理教奉仕活動前



順にブロックを固定します



砂利、コンクリートを除去して



土を横らし、ブロックの隙間を埋めて



土を入れ直し、ブロックを取り付けます



作業は概ね終了です



ブロックの重量は60kg！特殊な器具で運びます



そして現在の現場

看護教育研修『ホスピタリティーマインドへの気付き（パートⅠ）』 —すてきなあなたになるために（聴く力を磨く）—

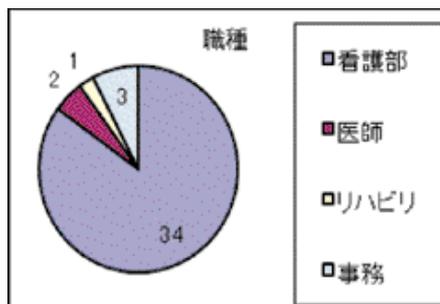
看護部教育委員会 看護師長 **か 嘉 戸 尚 美**

少子高齢化、核家族化、情報化（メール・インターネット・ゲームetc...）などにより、人と人との関わりが希薄になってきていると感じる事はありませんか？

私達は、職場、家庭、地域で多くの人と関わり、協働して、いろいろな役割りを果たしています。より良い人間関係構築のため、コミュニケーション能力を高めることは重要ではないかと思えます。

5月17日（土）、鳥取大学医学部総合医学教育センター学部教育支援室准教授 高塚人志先生をお迎えして、講義・演習を行いました。

土曜日の研修でしたが、看護部職員のほか、医師、リハビリ、事務の方からも参加があり、参加者は全体で40名となりました。参加内訳は右図のとおりです。



研修の内容は、講義、演習、体験が効果的に組み合わせられ、グイグイ引き込まれていく感じでした。他病棟・他職種の人たちとの交流もあり、「あ！そうか」「ウン、そうそう」と気付くことも多く、3時間余が楽しくあっという間に過ぎてしまいました。

今回参加された方は、聴くことの大切さを感じ、思いやりや、相手の立場に立って行動することの心地よさを体験することができたと思います。



始めは講義を聴きました。



みんなは何を書いているのかな？
私のは違うぞ…
みんな違っていても良い事が分かれば安心。



自分の気持ちや考えを言葉にする事が大切だと分かりました。



4人グループで、「私の事」を話します。聴いてくれると嬉しい。聴き上手になりましょう。



自分の普段の傾向を知る事ができました。相手としっかり向き合って、相手の良い点を見つけれられるようにしたい

実際、終了後に参加者から、『良い人間関係作りのためにコミュニケーションが大切』『日頃の自分を振り返る良い機会となった』『参加して良かった』等の言葉が聞かれました。

次回は10月25日（土）に開催の予定です。

今回参加できなかった方も、「すてきなあなたになるために」是非参加して下さい。

採用時研修を終えて

東1病棟 副看護師長 **いけだまさこ** **池田雅子**



研修終了!!

玄関前の桜が満開の4月3・4日、医療安全管理係長と3名の副師長で、旧5病棟の病室を利用して採用時研修の技術演習を担当しました。職場でのリアリティーショックを最小限にし、一日でも早く新戦力になれるようにと願いをこめて企画・準備にあたりました。対象は新卒や再就職の看護師6名で、酸素吸入・吸引・浣腸・手洗い・処方箋の見方・経管栄養法・膀胱留置



研修風景1

カテーテル・採血・注射を実際の物品を使用し手順に沿っての演習を行いました。2日目の午後には笠置臨床工学技士による輸液・シリンジポンプの取り扱いについて、実際に発生しやすいヒヤリハット事例も踏まえながら説明していただいた後、ミキシングやプライミングに悪戦苦闘しながらも、ポンプに輸液ラインをセットするところまで全員がたどり着きました。

学校や前職場で知識や技術として知ってはいても実際に使用する物品や機器の違いに皆さん戸惑っておられた様ですが、積極的に質問も出てきて、全員真剣な表情で取り組んでおられました。後に「丁寧に指導していただいてよく分かった。」との感想を聞き、担当



研修風景2

者としてやりがいを感じました。

集合教育は本当に基本的な技術の練習の場でしかありません。今後現場でいろいろな経験を重ねていくことにより成長していかれることと思いますが、そのためには先輩看護師の皆さんの温かいご支援とご協力が必要となります。先輩看護師の皆さん、どうぞよろしくお願いたします。

「看護の心をみんなの心に」看護の日行事を終えて

看護の日実行委員会委員長 東 1 病棟 副看護師長 **ふ せ みち よ**
布 施 道 代



こんな雰囲気で開催しました

昨年に引き続き、5月15日に看護の日の行事を「看護フェア」と題して、スーパーマーケット「みしまや上乃木店」で開催しました。暖かな日差しの中、買い物前後のお客様が立ち寄られたり、店内に掲示していたポスターを見て、わざわざ来て下さった方もありました。最近では家庭でも血圧や体脂肪率は簡単に測れる



ドクターによる健康相談

ようになりましたが、家庭で測ることの難しい内臓脂肪率や骨密度、栄養評価がすぐに測定でき、且つ医師・薬剤師・栄養士に相談できるとあって、待ち時間は少なからずあったのですが約60名の参加があり、中には「わざわざ病院に行くのは気が引けるけど、こういう

機会にぜひ」「栄養士の方に話を聞く機会がないので」と、言われた方もいらっしゃいました。10時から12時までの2時間の開催予定でしたが、天候に恵まれたこともあり、終了時間を延長してしまうほどの盛況振りでした。

副院長をはじめ、2名の医師、薬剤師、栄養士、また事務部門の協力も得て行う事が出来ました。血圧・体成分分析器を用いて、体脂肪量、内臓肥満評価、体制分測定、体系判定)・骨密度測定を行い、その結果をもとに、健康相談として医師・薬剤師・栄養士が現



栄養士による栄養相談

在の健康状態をコメントしました。健康志向が高まっている昨今、健康度をチェックできる場を病院外に設置し、地域の方々に気軽に足を運んでいただけました。

会場では、第3回「肺がんフォーラム」のパンフレット等を配布し、呼吸器市民公開講演へのお誘いもしました。松江病院が呼吸器専門の病院である事を知っていただく良い機会ともなりました。

こういったイベントは、他部門の協力なしには実現できません。今後も、当院の理念である「心の通い合う医療」を目指し、地域・社会に貢献できる医療チームとして、職種間で連携を取りながら色々な取り組みを行っていききたいと思います。

患者様のご紹介は

『地域医療連携室』 直通電話 (0852-24-7671) へお電話下さい

東1・2病棟合同行事「ふれあいの日」

療育指導室 保育士 **木村 洋子**

6月8日(日)に体育館で東1・2病棟合同の「ふれあいの日」が開催されました。今年は、午前の部は「体を動かそう」ということで、先ず準備体操から始まり、「ボウリングゲーム」「幸せのバブルリング送り」「車椅子ダンス」。そして、午後の部は、松江市立女子高等学校の吹奏楽部の演奏を楽しもう、という内容でした。

当日は多勢の家族の方々はもちろん、学生さんやOBの皆さんによるボランティアにも加わっていただき、とても楽しいひとときを過ごすことができました。なんといっても今年の目玉はアクアスから来てくれたという“島根のおじさまとおばさま”でしょうか!! 家族会会長と副会長扮する白イルカ(シャチ?それともクジラ?)がとてもみんなに受けていました。「触れると幸せになる」というリングを会場のみんにも回してもらい、全員が幸せになりますように、と願いながら触りました。

昼食は、患者様はカレーライス、デザートにプリン。家族、職員はお弁当をいただきました。あちこちで話が弾んでいたようです。

午後は、約30名の松江市立女子高等学校の吹奏楽部メンバーによる演奏。楽器紹介も交えながら、コンクールの課題曲、ピンクレディメドレー、最新の曲など、女子



吹奏楽部の生演奏

高等学校なのでメンバーは全員女の子とはいうものの大変迫力のある見事な演奏を聞かせてくれました。最後にアンコールに応じて演奏してくれた曲には楽しい振りがついていて、会場もとても盛り上がりました。

医療的ケアが多くなっていく患者様が増えていく現実、また、来年は病棟新築に伴う病棟引っ越しもあり「来年は開催できるかな?」という意見もありますが、皆が楽しんで、皆が元気が出るような時間が過ごせる企画はこれからも必要ですよ!!

あ い が と う

新和設備工業(株)の皆さんによる奉仕活動をしていただきました。

社会貢献の一形態として、奉仕活動に積極的に取り組まれている新和設備工業(株)【島根県松江市平成町】さんからも、ボランティア活動の申し入れをいただきました。昨年は草刈り作業をお願いしたのですが、丁度冷房の時期に差し掛かることもあって施設内の空調設備のフィルタ清掃をお願いしました。6月7日に活動していただいた様子がこれらの写真でして、屈強な男性社員の方々が13名来院され、てきぱきと作業をこなしておられました。例年ですと事務部の職員総出で2日間かけて行っていたイベントですが、約6時間の活動で支障等なく完了されました。お陰さまで冷房の運転に入ることが出来ます。ありがとうございました。



集合!



んっ、これは取りづらい



ほいっ、次っ!

掃除機も大型です



永年勤続表彰

さる年4月18日に独立行政法人国立病院機構永年勤続表彰の伝達式が当院会議室に於いて行われました。徳島院長から、表彰を受けられた方々にねぎらいと激励の挨拶があり、表彰状と記念品が各人に授与されました。表彰を受けられた方々は、次のとおりです。

勤続30年

看護師長
洗たく長
副臨床検査技師長
主任調理師
主任保育士
看護師
准看護師
准看護師

うち内 だ田 きょう教 こ子
かかげ景 やま山 ひで栄 かず一
いし石 た田 みさお操 さかえ
わた綿 ぬき貫 さか子
たに谷 くち口 かず和 こ子
よし吉 なか中 あき秋
た田 なべ部 さ江
なか中 ばやし林 みほ穂 こ子

勤続20年

看護師長
副薬剤科長
副看護師長
看護師
看護師
看護師
看護師
看護師
看護師

か嘉 とう戸 なお尚 み美
ふじ藤 た田 ひで秀 き樹
たく藤 わ和 えい栄 こ子
たく宅 さわ澤 もと本 てる栄 み美
あお青 やま山 えみ美
き木 むら村 まりよ世
はら原 お村 わか真理 よよ
もち持 だ田 かつ和 かみ美



しじみ会 六月紫陽花号

平成20年7月1日号

リハビリテーション科 作業療法士 たて立 いし石 よう葉 こ子

・蛙鳴く 田んぼ歩けば 別世界

帯石会長

・娘らの 二の腕白き 夏来たる

京の静さん

・待ってたぞ 言わんばかりに 若葉燃ゆ
となりの住人

・花の丘 ドラマのヒロイン なりきって
白イルカさん

・花便り 実物観たいと ひとり言
やどかりさん

・挿し木より 育てし花よ 黒椿
けん一さん

・新緑や 胸元そよぐよ 露天風呂
永島さん

・ウマとシカ なんて俺らが 馬鹿なのさ
ヒミコジャパンさん

・輸入品 頼りすぎてた つげが来た
「K」さん

・白鳥は 春が別れの 時なのです
堀内さん

・友と行き 淡墨桜 懐かしさ
岡さん

・あおぎみて あのときの桜 思い出す
山本さん

〈“淡墨桜”は岐阜県本巣市にあり樹齢1500年、大正11年に国の天然記念物に指定された、世界一の名桜〉

松江病院の元気宣言！

「しんじ湖会」(松江病院OB会)の発会を祝して

名誉院長 ^{たけ}武 ^だ田 ^{こう}弘
(松江病院OB会会長)



豪華な受付陣

平成20年7月12日に、松江病院OB会（通称「しんじ湖会」）が発会され、発会総会と親睦会を松江市千鳥町のホテル白鳥で開催いたしました。総会の開会は110名を上回る多数の会員の皆様のご参加をいただき、また徳島 武院長をはじめとする病院幹部の方々のご臨席のもと、和やかな雰囲気の中、



発起人の皆さん

中井 勲発起人副代表の開会挨拶に始まり、私の挨拶、そして徳島院長の祝辞と進みました。



総会の一場面

総会議事は岩崎元副看護部長、加納前看護部長のご両名による名議長役で滞りなく進行いたしました。総会にて会長職については発起人代表であるところの不肖私が務めさせていただきますことになりましたので、改めて当会発会の主旨である病院発展への協力、また会員相互の親睦の醸成を会員各位にお願いして、総会を終了しました。

総会の後、記念撮影を行い、午後からは多数の現役

職員有志の方々にもご参加をいただき、親睦会を開きました。田中元看護部長の挨拶で始まり、入澤輝男先生の乾杯の御発声、竹山副院長、笠木重人先生、田部元教育主事、橋本元事務部長のスピーチ、アトラクションの安来節・カラオケ等で、会は大いに盛り上がりしました。久森前事務部長の、次回の再会を期待するという閉会の挨拶まで、あっという間に時間が過ぎていきました。

総会、また親睦会を通じ、ご出席された会員の皆様に本当に喜んでいただくことが出来ましたことが何よりも嬉しく、次回開催の2年後は完成した新病棟を見学しての会になるかと今から楽しみにしております。

なお、当日は本人のご都合によりご出席いただくことが出来ませんでした。この会の発足を誰よりも切望しておられた名誉会長の藤野道友先生には盛会の模様を近日中にご報告いたします。

また、準備段階から数ヶ月にわたり色々ご尽力いただいたOB会事務局の皆さん、お疲れ様でした。



そして、人の輪



親睦会風景④
「インターバル」



親睦会風景①「笑顔」



親睦会風景②「熱唱」



親睦会風景③「チームワーク」

外来診療表

お気軽にご相談下さい

平成20年 7月 1日現在

診療科	日	月	火	水	木	金	専門領域	
呼吸器内科	矢野	小林	若林	門脇	池田		【呼吸器科】 竹山 博泰 矢野 修一 池田 敏和 小林賀奈子 木村 雅広 門脇 徹 若林 規良	【副院長】呼吸器一般・アレルギー 【統括診療部長】呼吸器一般(肺循環・肺がん・結核他) 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般・アレルギー
	木村	若林	竹山	竹山				
循環器内科	石川					石川	【循環器科】 石川 成範	循環器内科一般
消化器内科						石原		
神経内科		下山			足立		【神経内科】 足立 芳樹 下山 良二	神経内科 神経内科・リハビリテーション
外科	徳島		中井					
小児科	久保田(予約)	齋田(予約)	齋田(予約)	久保田(予約)	齋田(予約)		【小児科】 齋田 泰子 久保田智香	重度心身障害・小児神経・摂食機能障害 発達障害・重度心身障害
	齋田	久保田	久保田	齋田	久保田			
発達専門外来							【放射線科】	
予防接種		(予約)						
肺がん検診	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)		【外科】 徳島 武 目次 裕之 荒木 邦夫 三好健一郎 中井 勲	【院長】呼吸器外科・胸腔鏡下手術(肺がん・自然気胸他) 呼吸器外科・一般外科 呼吸器外科・一般外科 呼吸器外科・一般外科
睡眠時無呼吸外来					呼吸器科 担当医(予約)			
特 息切れ外来		呼吸器科 担当医(予約)					【小児科】 齋田 泰子 久保田智香	
喘息 アレルギー外来			竹山 (予約)	竹山 (予約)				
咳嗽外来			竹山 (予約)	竹山 (予約)			【放射線科】	
禁煙外来			竹山 (予約)	竹山 (予約)				
アスベスト外来			竹山 (予約)	竹山 (予約)			診療時間 8:30~17:15 受付時間 8:30~11:30 自動再来受付 7:30~11:00 独立行政法人国立病院機構 松江病院 呼吸器病センター 〒690-8556 松江市上乃木5丁目8番31号 電話 (0852) 21-6131(代) 医療連携室直通電話 (0852) 24-7671 医療連携室FAX (0852) 24-7661 URL http://www.hosp.go.jp/~matsue/	
嚔下障害外来		下山 (予約)						
神経難病外来		下山			足立		シンボルマーク	
筋ジストロフィー 専門外来					下山 (予約)			
その他	セカンド オピニオン 外来	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)		

小児科発達 専門外来	診療日：毎週月～金曜日 内容と特色：ことばや運動の発達の遅れ、低身長などの発育の異常、ひきつけ、などの疾患に対する診断・治療療育相談を行っています。投薬、理学療法など通常治療のほかデイケアでの遊戯療法も行っています。
肺がん検診	診療日：毎週月～金曜日 15:00～16:30 (要予約) 内容と特色：ヘリカルCTを使用し、小さな肺がんも発見できます。料金5,250円(税込み)
睡眠時無呼吸 外来	診療日：毎週木曜日 14:00～16:00 (要予約) 内容と特色：いびき、睡眠時無呼吸症候群の診断治療を行います。
特 息切れ外来	診療日：毎週火曜日 13:00～15:00 (要予約) 内容と特色：息切れの診断と治療を行います。
喘息 アレルギー外来	診療日：毎週水・木 9:00～12:00 (要予約) (日本アレルギー学会専門医・指導医が担当) 内容と特色：成人気管支喘息・花粉症。個人個人に合わせた予防法、日常生活指導から最新の治療まで。
慢性咳嗽外来	診療日：毎週水・木 9:00～12:00 (要予約) (咳嗽研究会会員が担当) 内容と特色：3週間以上長引く、咳(せき)や喉の異常感でお悩みの方。声楽家・アナウンサー・教師など声を重要な手段とされる方の悩み。
外 禁煙外来	診療日：毎週水・木 9:00～12:00 (要予約) (日本呼吸器学会専門医・指導医が担当) 内容と特色：禁煙を志す方の検査、診断と相談に応じます。
アスベスト外来	診療日：毎週水・木 8:30～11:00 (要予約) (日本呼吸器学会専門医・指導医が担当) 内容と特色：石綿(アスベスト)曝露による肺障害を発見するための検査と診断を行います。
嚔下障害外来	診療日：毎週火曜日 8:30～ 嚔下障害外来 (要予約)
神経難病外来	診療日：毎週火・木 8:30～ 神経難病外来
筋ジストロフィー 専門外来	診療日：毎週木曜日(予約=指導室まで) 8:30～ 内容と特色：筋ジストロフィー病棟医が診療に当たります。診断から在宅ケアのための医療や介護・福祉サービスの紹介など専門的、総合的外来です。在宅患者に必要な定期的精査短期入院(筋ジストック)も受け付けています。
セカンド オピニオン 外来	診療日：完全予約制(紹介状必須) 内容と特色：呼吸器・呼吸器外科・神経内科・小児科(筋ジスト)の専門医(医長)が担当致します。